

思いやりは心のワクチン

千葉県 六実小学校

6年 山口 凜

私のクラスには、4年間ずっといっしょに学校生活を送ってきた男の子がいます。その間、彼が泣いているところを一度も見たことがありません。だけど、運動会の本番を間近に控えたある日、彼は泣いていました。私が初めて見る彼の姿でした。

授業で、演技種目のソーラン節を練習していた時のことです。私が、

「どうしたの。」と声をかけたところ、彼は涙を浮かべながら、

「仲間に入れてくれない。」とつぶやきました。

私は、4年間もともに過ごしてきた大切なクラスメイトの一人として、「彼の力になってあげたい。」と心に決め、「私についてきて。」と伝えました。

だけど、彼は真横に首を振りつつ、小さな声を震わせ、「もう大丈夫だよ。」とだけ言葉を返してくれたところで、授業が終わったのです。

私は、あまりに自分の中途半端な行動に腹立たしさと情けなさを感じるとともに、深く反省しました。どうして、もう少しでも彼の気持ちや状況に寄り添った言葉を伝えることができなかつたのか、と。

国語辞典によると、相手の気持ちや立場に寄り添って考え、相手と接することを「思いやり」といいます。そうです。私は、彼に対する思いやりが足りなかつたと気づいたのです。

そもそも私が本当に彼の力になってあげたかつたことは、この思いやりを通して、あのとき彼の心の中に何かよくないものが生じることを防いだり、それが生じることを防げなかつたとしても、少しでも心の中を穏やかにしたり、和らげたりすることであつたはずなのです。

この私の願い。それは、インフルエンザや新型コロナウイルスのために接種する「ワクチン」の働きに何か似ていませんか。「思いやり」は、心の「ワクチン」につながるものとも言えるでしょう。

この夏休み直前、体育の授業で再び彼が泣いていました。ドッジボールが彼の顔に当たつたからです。私は、彼の気持ちにきちんと寄り添えるように一生懸命考えた結果、今度は、近くにいたクラスメイトに声をかけて、みんなで彼を休憩場所まで連れていくことにしました。

このクラスメイトの中には、彼と大の仲良しの男の子がいて、ずっと付き添ってあげていました。彼の瞳から涙が止まり、少しずつ少しずつ微笑みが戻り始めていたのです。この彼の光景が今でも忘れられません。

彼が泣いていた前回と異なって、私はクラスメイトのみんなで協力し合い、彼に寄り添うことが、顔を痛めて落ち込んでいる彼への心のワクチンになっていたと確信しています。

そして、このできごととは私自身の心にもよい変化をもたらしています。彼と私との間にあつた壁が低くなり、今までの4年間を超える友だちの関係を築けています。すなわち、相手の心へのワクチン接種は、自分自身にも効果があるのです。

もっと世の中に、多くの人々へ心のワクチンを広めていきませんか。